



教授の呟き

第65回

物流は、見えるか、見せるか、見せないか

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● 仕事の基本は整理整頓

5S（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）は、物流を含めて仕事のイロハである。しかし筆者は、片付けやファイリングがあまり得意ではない。このため、会社勤めから現在の職場に移ってからは自己流の雑な管理になり、書類を探す時間がどんどん増えていった。

ところが最近では、いつの間にか、誰でもひと目で分かるようにファイルされている。前日に自分で置いた資料が見当たらなくなっても、「この書類の山の中かしら…」と探し出してくれる。実は、鋭い第六感を持つ秘書に、助けられているのだ。

資料整理による「見える化」は、仕事の効率を上げる必須条件だと実感している。

●●● 可視化から見える化へ

「見える化」の以前には、「可視化」という言葉も使われていた。たとえば、エアコンの吹き出し口に結ばれたリボンで風の強さと向きが見えるように、また特殊カメラにより温度分布が色分けされて見えるように、可視化への工夫は多い。

しかし「見える化」は、「可視化」よりも進化した用語として使われているようだ。「見える化」は、「見えなかった実態や数値が、見えること」だけでなく、「業務実績をデータとして把握し、評価基準を設けて改善方

法に見える」ようにし、さらには「データ分析を通じて将来を予測し、将来の課題も見えるようにする」という意味が含まれている。

つまり、エアコンによる風の流れをリボンで視覚に訴えるだけでなく、そのリボンの動きから冷えすぎを予想したりして、将来に備えることが重要なのである。

●●● 物流の「見える化」

最近、物流の世界でも「見える化」という言葉がよく使われている。

物流の世界では、実態が正確に見えないことはよくある。帳簿上の在庫はさておき、本当の在庫はいくらあるだろうか。発送した製品は、いま何処を輸送中なのだろうか、それともターミナルにあるのだろうか。配送された冷凍製品の輸送中の温度や、温度変化による品質劣化は無かっただろうか。

これらの物流の実態が正確に見えるようになれば、問題の所在も見え、さらには将来の解決案も見えてくる。「データを収集・管理・分析し、将来の予測と課題発見につなげること」こそが、「見える化」の真の目的である。

●●● 物流を「見せるか？」

物流業務に携わる人々が「物流の見える化」のために、データを収集し分析したとしよう。では消費者や顧客に対して、物流の実態をどのよ

うに「見せる」べきなのだろうか。

ペットボトルやおにぎりのように、われわれが日ごろ手にする商品には、生産地や生産者が記され、成分や原材料も表示されている。つまり、「生産の履歴」を見せている。

しかし残念なことに、どのような輸送手段で運ばれ、どのように品質管理をされてきたかなどの、「物流の履歴」は表示されていない。

最近、輸入食品の安全性から、トレーシング（消費者から生産者にさかのぼって流過程を追跡する）や品質管理が問題となった。このように顧客や消費者に対して、輸送方法、保管方法、商品環境、商品外力、商品品質など、「物流の履歴を、どのように見せるか（知らせるか）」が求められている。⁽¹⁾

●●●物流は「見せないか？」

一方で、物流の存在を人々に気付かせないように、また人々の視線に入らないように「物流を見せない工夫」（ないし、物流を隠す工夫）もある。

高級なホテルでは、料理や材料を運ぶときに、客が使用する廊下やエレベーターは使用しない。大規模な再開発地区でも、地下は貨物自動車、地上は乗用車とタクシー、2階は歩行者と分けている例がある。⁽²⁾

このように、人と物の交通動線を空間的ないし時間的に分離する方が、互いに邪魔にならないし景観上も好ましい。

物流の、「見える化」「見せる化」「見せない化」

見える化

データ収集・管理・分析、将来予測と将来の問題発見

見せる化

顧客や消費者への物流履歴の情報提供、安心安全の確保

見せない化

効率化のための人と物の分離、景観や心地よさの実現

●●●視覚から始まる3つの対策

どうやら物流には、「見える化」「見せる化」「見せない化」があるようだ。

「見える化」は、単なるデータ収集と管理だけでなく、分析を通じて将来予測や将来の課題発見にも必要である。「見せる化」は、顧客や消費者への物流履歴の情報提供であり、

安心安全の確保の一環でもある。「見せない化」は、効率化のための人と物の分離であり、景観や心地良さの実現でもある。

この3つを、なんとか上手に使い分けたいものである。☺

- (1) 苦瀬：教授の眩き、第61回「ロジスティクスのブランド化」、流通設計21、第39巻1号、2008年1月号
- (2) 苦瀬：教授の眩き、第53回「物流からみたビル設計の課題」、流通設計21、第38巻5号、2007年5月号

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により東京海洋大学、副学部長、評議員、流通情報工学科長を経て現在教授。94年から95年の1年間に、フィリピン大学客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）、「都市の物流マネジメント」（勤草書房） <http://www.2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

